

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100960		
法人名	株式会社 進幸		
事業所名	グループホームピアハウスPOP		
所在地	札幌市中央区北4条西16丁目1番3 幌西ビル2階 (電話)011-613-6490		
自己評価作成日	平成24年2月27日	評価結果市町村受理日	平成24年4月2日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。 http://system.kaigo.or.jp/	
基本情報リンク先URL	http://system.kaigo.or.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0170100960&SCP=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設しているデイサービスとの合同でイベントを行い、多機能型のメリットを活している点、ヒバを使った浴槽によりリラックスした入浴が出来る点、近隣の幼稚園児との定期的な訪問をうけ、双方に良い交流が出来ている点等があげられる。また、運営推進会議には利用者にも参加してもらい、意見を出してもらっている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの環境は、ビル2階をデイサービスと区分して活用し、相互の機能を活用すると共に交流を計って効果を上げている。 2)地域との交流は、幼稚園児との交流や町内会・民生委員など多くの協力体制を整えている。 3)運営推進会議は定例に行い、地域住民・民生委員の協力を得るとともに、家族・利用者の参加を得て、意見を運営に活かしている。
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが	○ 3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	○ 1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	○ 3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが	○ 2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、壁に提示し全職員で共有している。	理念を事務所に掲出するなど、職員が確認し、共有して業務に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントなどに近隣(北4条幌西ビル等)の方々が大勢参加していただけるようになり、また、同じ区内の幼稚園児との交流などが盛んに行えるようになった。	事業を開業しているビルの住民との行事交流などを深めて、地域の一員としての生活ができるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に加入しており、運営推進会議を通して夏祭りの行事等には近隣の方々に参加をしていただく等、地域の人たちと自然に関わるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、意見を反映させるよう努力している。	関係機関(包括支援センター・民生委員)の参加も含め、家族・利用者も参加の意見交換を図り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市グループホーム管理者連絡協議会・区管理者連絡会で意見交換や情報収集し、積極的に行政情報を活用している。運営推進会議には区役所職員(地域第一包括)が参加している。	管理者連絡協議会などを通して、市行政の意向や方針の理解に努めるほか、障害や生活保護者への支援に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけないケアを実践している。身体拘束や虐待について研修で学び、全職員に周知している。	身体拘束等の研修を職員相互で進め、正しい理解を共有して実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、それをミーティング等で周知徹底し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修、セミナーに出席し、必要性を認識している。実際に成年後見制度を活用している。		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明し、理解していただいている。		
10	6	○ 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、不満がある都度お話しただいており、ミーティング等を通じて職員間で話し合い解決している。また、運営推進会議において、利用者の意見を聞いている。	単身者が多く、利用者の意向を日頃から受け止め、また、家族からは訪問の時や運営推進会議等で意向把握に努めている。	
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に二回、ミーティングを開き、職員の意見を聞く機会を設けている。	月2回の職員会議を開催、日常業務の課題を検討するとともに、職員間の意見反映の機会ととらえ、改善に反映している。	
12		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境作りに取り組み、働きやすいよう配慮している。		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画、職員の段階に対応して、それぞれの職員が研修を受ける機会を設けている。		
14		○ 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会、研修会等を通じて、同業者との交流の機会を持っており、催しの共同企画、運営等に反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から不安、求めている事等を聞く機会を設けている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族等と接触出来るようにしているが、初期段階での家族の関わりがないケースもある。時間をかけて少しずつ理解していただけるよう努力している。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員、家族とも馴染んでいけるよう相談工夫しながら進めている。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から利用者から学んだり、支えあう機会を設けている。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは殆ど行き来のない人もあるが、声がけをきめ細かに行う事によって訪ねてきて聞いてくれるようになったケースもある。一緒に支えていく関係を築いていくよう努めている。		
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者は、今までの関係を維持できているが、全体として支援出来ていない。	単身者が多く利用していることもあり、かねての生活関係でのなじみある関係は少ない。ホームと地域の交流などで、新たな関係を作るよう努めている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握し、食事の席を調整したり、また、レクリエーションを通してコミュニケーションを取れるようにする等支援が出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状は出来ていない。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の希望にそっている。	一人ひとりの生活歴や日頃の会話、趣味・嗜好など、その人らしい受け止めに努めている。	
24		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握出来ていない利用者が多い。		
25		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状をある程度把握出来ている。		
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話し合う機会を多く持ち、より良く暮らすためのアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の意向を反映するとともに、職員相互の日常の判断を活かした介護計画とモニタリングに努めている。	
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の気づき等、記録から情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同敷地内にあるデイサービスの催しに参加させてもらう等、多機能性を活かしている。		
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が良い生活を送るために、地域の社会資源を活用している。		
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ以前から通っていた病院に通院している。	個々のかかりつけ医を活用するとともに、同じビル内のクリニックの活用など、利用者の状況に応じた受診支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護職と相談し、健康管理や機能訓練を取り入れたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、法人嘱託医と相談し、日常の健康管理、緊急時の対応を含め、医療を活用した利用者の支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現実には重度化しそうな場合に家族、かかりつけ医等との話し合いが始まっており、より早期の段階での方針共有が必要である。	利用者の重度化の対応は、看護師の意見・連携医療との連携など対応を図りつつある。	単身者が多いこともあり、対応には方針を共有できる準備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命研修会に出席し、また定期的に看護師に指導してもらっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年回実施している。消防署の協力のもと非難経路の確認、消火器の使い方、設備点検も行われている。消防法に基づき、スプリンクラーの設置。	避難訓練の実施、通報装置、消火設備などの整備を図るとともに、地域の理解・協力を求める働きかけに努めている。	災害に応じた備蓄や備品対応について検討を期待したい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保については、職員間でも注意し合い徹底している。	職員間の対応認識を確認して、利用者の個性や誇りを損なうことのない実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人にわかりやすく話し、希望を聞き取り、自己決定出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを把握し、一人ひとりに合わせて支援出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、本人が望むとおりにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、味付け等は利用者とともにやっている。	食事の手伝いなどできる人の参加で、楽しい食事の機会となるよう努めている。	
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録してカロリー、栄養バランス・塩分摂取に気を配り、一人ひとりの身体、咀嚼、嚥下状態にあわせた食事を提供している。		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な利用者には口腔ケアを行っている。また、月に一度、訪問診療を受けている。		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を活用して排泄のパターンを把握し、自力排泄を促す等支援出来ている。	バイタルチェックを大切に、個々の排泄パターンや所作をとらえ、自立排泄を促がすよう努めている。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューを作成する時には、バランスの崩れた食事にするため、食材選びに気をつける。		
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴して頂いている。入浴は強制せずに声かけなどを大事にしている。異性介助がないように行っている。体調不良や本人の気分などで入浴出来ない状態など場合には足浴又は清拭対応を行っている。浴槽はヒバを使い木のぬくもりが伝わる浴室になっている。	自由な対応に努め、同性介助や足浴、清拭など、本人の意向を大切にしたい支援をしている。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人が思い思いに暮らしており、利用者に合せた支援を行っている。		
47		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援、症状の変化の確認に努めているが、全ての薬について全職員が理解しているとは言い難い。		
48		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの長所を活かせるように役割りを持ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の活性化につながるよう日常的に買物や近くの遊歩道散策に出かけている。一人ひとりのその日その時の体調に配慮し、希望に沿った外出支援を心がけている。(パーマ・カラオケなど)	デイサービスとの交流、買い物、理髪、近隣の散策路の散歩などの支援に努めている。	散策路など環境に恵まれているので、さらなる支援を期待したい。
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が可能な利用者には支援出来ている。野外行事等では各自にお金を渡し、買い物等の楽しさを味わっていただいている。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って支援している。		
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔にし、造花も季節によって変える等、工夫している。	居間全体は広々として明るく、利用者の作品展示や季節対応の飾りなど雰囲気作りに工夫している。	
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人一人が自分の居場所を確保できるよう心がけている。		
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具等を使用している。スタッフが担当ルームを決め、家族となって部屋等の装飾を話し合いながら行っている。	利用者個々の好みに応じた居心地作りを家族の意向や単身者には職員が一緒になって行っている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺を配置し、段差はスロープになっている。日付や季節、時間等がわかりやすいよう工夫している。		